
恋のエルミタージュ

国見遙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋のエルミタージュ

【Zマーク】

Z7694C

【作者名】

国見遙

【あらすじ】

なんとなく思いついたことを書き綴つた、詩へのような感じの一見意味不明ですが実はちゃんと意味のある話。どうぞご覧下さい。

先に見えるは永久より続く紅く醜き道。その道を進むか進まないかは貴方次第。永久に続く道を貴方が選ぶなら、深く潔白な覚悟をその身に宿し、その両手に虚ろがざる刃を持つて彼方を見据えろ。

唯々空に広がるは、貴方を誘う狂喜の声。その声に耳をかしてはならない。その声は深き空の色と豊潤な地の香りを併せ持つた死の味をもつてゐる。その声に耳をかしてはならない。貴方が前に進む覚悟をもつてゐるのならば。

空に腰を降ろした雲は貴方がどんなに天を仰いでも姿を変えない。彼は異常なまでの嫉妬心を持つてゐるからだ。その淡き嫉妬は天と地に向けられ、それは永遠に退けることは出来ない。天は神と崇められ、地は恩恵を賜る氣高きもの。人々はそれら一つにのみ信仰を注ぐ。雲はそれに嫉妬してゐるのだ。

いざ進め。まごうことなき迷いのなさをもつて、深紅の道を。その先には光と闇の混在する世界。そこで歡喜の宴を見つけるか、死票の儀に身を委ねるかは貴方次第。もしそこで歡喜の宴を見つけたならば、一時の幸福にその身を任せ、それまでの険しき旅路の疲労を忘れ、いつ崩れるやも知れぬ興奮と快感に酔いしれるのも良いだろう。だが、これだけは心に刻め。すぐ横は断崖だということを。死票の儀に身を委ねるならば、そこで足を止めはならない。地から伸びる人の心のように黒い腕が貴方をいつまでもü

苦渋ばかりを舐める旅にもいつかは終点が射す。そこで旅路の先に見つけた終わりを悔いるか、深紅の道を進まなかつたことを悔い

るか。それすらも貴方次第だ。しかし、もし私なら進んだ後の後悔よりも進まなかつた時の後悔を怨む。たとえ世界の終わりが望むものでなかつたとしても、まだ見ぬ世界に心を揺りがせるよつはずつと空は晴れ渡るだろ。ひ。

その旅路の苦しみは何より楽しく、その旅路の悩みは何より嬉しく、その旅路の悲しみは何より甘く、その旅路に死ぬことほど幸福なことは他にない。

さあ、貴方ならどうする。仮に光を見出し歡喜の宴を見つけても、それは喜びのように早く消えるかも知れない。それでも貴方は進むか。それでも貴方は世界の終わりをその目に焼き付けることを望むか。もし進むのならば、もし焼き付けることを望むのならば、貴方は自分の身を切り刻むことをも厭つてはならない。

降れ、降れ雨よ。啼け、啼け風よ。貴方が望むなら深紅の道は祝福の青き道へとその姿を変え、終わりなき至福の金色の光を降り注がせるだらう。

神よ。もしそなたがこの世に存在するのならば、どうか彼方にも彼方にも闇の誘いが無きよう、そなたの神歌で、終わりなき擁護を。

神よ。もしそなたがこの世に存在するのならば、どうか彼方の首を絞める艶縁の鎖を引きちぎり、彼方に比類なき強さを賜りたまえ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7694c/>

恋のエルミタージュ

2011年1月20日00時29分発行